

英国での妊婦検診



「妊娠したようなのですが、英系と日系の病院、どちらで診てもらうのがよいのでしょうか？」こんな相談を受けることがあります。異国での妊娠・出産は、その国での医療機関の対応などを良く分かっていないと不安なものです。今回は、英国における妊婦検診の現状を、日本の検診と比較し、ご紹介します。

妊娠してみたいけど、まず何をしたらいいの？

既にGP (General Practitioner、家庭医・一般医) に登録されている方は、そこで尿検査による妊娠判定をしてもらえます。もちろん、日系または現地プライベート病院を受診しても、妊娠判定は可能です。また、市販の妊娠判定薬には、FirstResponse、Clear Blue、Rapid Self Testなどがあります。こうした薬を薬局やスーパーマーケットなどで購入し、自分で判定することもできます。

具体的な検診はどんなもの？

英国式の場合、検診は原則的に助産婦 (midwife) が行います。胎児の心音の確認、血圧測定、尿検査などを行うのみです。妊娠28週までは4週間毎、その後は2週間毎に検診を行います。貧血検査などの血液検査は、妊娠12週および30週頃、NHS (National Health Service、英国国営医療サービス) 病院を受診し、行うこととなります。プライベート病院の場合も、ほぼ同様のことを医師が行います。なお、英国では子宮の入り口の状態を確認するための内診は、原則的に行いません。

超音波検査はいつするの？

英国式の場合、妊娠12週および20週の2回のみ、NHS病院またはプライベート病院で超音波技師が行います。それ以外の時期には、正常な妊娠かどうか、胎児の発育状態、逆子であるかどうか、羊水や胎盤の状態などは、はっきりとは分かりません。日本と同様に、初診時から毎回、超音波検査を希望される場合は、日系プライベート病院で産科専門医に相談する必要があります。

英国式と日本式、どちらが安心？

妊娠の経過が順調な場合は、いずれも安全で妥当な検診方法といえます。ただし、妊婦検診の目的が、万一の異常を早期発見することであると考えれば、毎回超音波検査を行い、産科専門医が総合判定する日本式がより安心といえるでしょう。

日系病院でお産できる？

残念ながら、現在英国には出産を取り扱っている日系プライベート病院はありません。しかし、日系プライベート病院から現地プライベート病院を紹介・予約することは可能です。また、里帰りして日本で出産する方法もあります。